

ヒジキの生長について

小島 博・浜崎 晃・宮崎 一誠

近年、ヒジキの需要が増え、ヒジキの増殖について関心が高まっている。そこで、前年度から本年度にかけて徳島県産ヒジキの生長について牟岐町大場の浜で調査したのでその概要を報告する。

1 方 法

調査は58年10月2日から59年12月6日まで、原則として各月上旬に1回、ヒジキ群落が干出する時間に採集した。採集位置は牟岐町大場の浜南側のヒジキ群落とし、ヒジキの密生した場所を選んで、10×10cm枠を置いて根から採集した。採集したヒジキを研究室に持帰り、根元から分け、綿布で水分をぬぐってから全長を測定し、総重量を測定した。

2 結 果

調査結果を表1に示した。全長の平均値と最大値の季節変化はほぼ一致した。ヒジキの藻長は8月に最小となり、12月までの生長は僅かであったが、その後急速な生長を示し、3～6月には最大となった。5月の調査結果は3、6月に比べて小さいが、これはヒジキの収穫による影響である。今回の調査水域では、ヒジ

キの最大全長は80cm程度になるものと推定された。また、多年生であるヒジキは群落内に周年小型個体が存在していることがわかる。現存量(湿重量)は藻体長の季節変化と密接な関係があり、現存量 Y (g/100cm²)と平均藻長 X_1 (cm)及び最大藻長 X_2 (cm)の関係はそれぞれ次式で示す通りであった。

$$\ln(Y) = 1.416 \ln(X_1) + 1.538 \quad (r = 0.94)$$

$$\ln(Y) = 1.417 \ln(X_2) + 0.471 \quad (r = 0.98)$$

現存量の湿重量は3月に最大の926g/100cm²、8月に最小の26g/100cm²がそれぞれ得られた。

3 考 察

牟岐町大場地先の例では、ヒジキは3月から6月にかけて最大80cmとなった。また、現存量は1kg/100cm²近くに達した。生殖期を経たヒジキは末枯れによって先が消失し、8月には全長は最小となった。しかし、8月には再び生長し始め、新しく伸びた部分が観察された。8月から12月にかけての生長は緩やかであるが、水温、気温の低い12月から3月の生長は急速である。

今後は、ヒジキの成熟期を調査し、増殖方法を検討することが課題である。

表1 牟岐町大場地先のヒジキの調査結果

昭和年月日	全 長 (cm)			湿 重 量 (g/100cm ²)
	平 均	最 小	最 大	
58. 10. 2	6	1	10	46
11. 1	7	1	18	70
12. 3	12	1	24	165
59. 2. 7	33	19	44	329
3. 6	39	3	80	926
5. 4	19	2	52	624
6. 4	32	3	81	678
7. 3	7	1	25	143
8. 7	4	1	6	26
9. 7	6	1	14	54
11. 7	12	3	22	129
12. 6	11	1	24	124